



村の絵図と検地帳

茨城県立歴史館では、7月15日から「絵図・地図・アーカイブ図―描かれた茨城の都市と村」という企画展（アーカイブズ展）が開催されます。近世から近代にかけて作成された絵図や地図を紹介する展示です。

近世（江戸時代）、絵図はたくさん作られました。常陸大宮市域でも現存する絵図はいくつもあります。村全体を描いたもの、村の中の一部分を描いたもの、山や河川を描いたものなど、用途に合わせて様々な絵図があります。平成8年（1996）に刊行された『美和村史料 近世村絵図』（美和村史編さん委員会編、美和村発行）は当時の美和村に残る近世の絵図を集めたものです。旧美和村は近世には7ヶ村あり、その内5ヶ村の絵図が残っています。5ヶ村の絵図は天保年間（1831-1845）に行われた水戸藩の天保検地に伴って作成されました。

旧美和村と同様に、天保検地に伴って作成された絵図は、常陸大宮市域の他の地域にもあります。たとえば、茨城県立歴史館所蔵の野口平区有文書には「(野口平村絵図)」があります。野口平村は平成の大合併以前の市町村では旧御前山村にあたります。茨城県立歴史館には天保10年(1839)から大正4年(1915)にかけて、約800点の史料が所蔵されています。「(野口平村絵図)」の作成年は史料に書かれていないため確定できません



茨城県立歴史館 史料学芸部 歴史資料課
主任学芸員 武子 裕美
近世史部会協力員

が、野口平区有文書には天保13年の検地帳が遺されており、野口平村における検地の様子がわかります。

天保検地に伴って作成された字ごとの絵図が野口平村にもあるはずですが、「那珂郡野口平村御検地野帳〔3冊の内3〕」（資料番号：野口平区有文書215）は天保13年9月20日から作成された検地に関する帳面です。開いてみると、検地を行った日付、土地の字名、土地の等級、広さ、所有者などが書かれます。帳面の最後には全ての土地の数と、それぞれの地域の役人の名前が列記され、野口平村の庄屋などが署名して印を押しています。こうした検地に関する情報は、文字で残すと共に、絵図でも残されます。

常陸大宮市域には、これまで発見されていない絵図がまだまだあるかもしれません。絵図は村のを知るにはとても良い史料です。情報をお持ちの方は常陸大宮市史編さん室までご連絡ください。常陸大宮市の歴史を紐解いていきましょう。



▲那珂郡野呼村御検地野帳(3冊の内3)

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)